

平成24年度（2012年度）
[平成24年4月1日～平成25年3月31日]

事業報告

公益財団法人 マツダ財団

目 次

平成24年度(2012年度)事業報告 (総括)	1
I. 科学技術振興に関する活動の概要	2
I-1. 研究助成	2
1. 募集・応募・選出状況	2
2. 助成件数の推移	3
3. 第28回(2012年度)マツダ研究助成一覧	4
I-2. 事業助成	5
1. 募集・応募・選出状況	5
2. 助成件数の推移	6
3. 第28回(2012年度)マツダ事業助成一覧	7
I-3. 科学わくわくプロジェクト	8
II. 青少年健全育成に関する活動の概要	10
II-1. 研究助成	10
1. 募集・応募・選出状況	10
2. 助成件数の推移	11
3. 第28回(2012年度)マツダ研究助成一覧	12
II-2. 市民活動支援	13
1. 募集・応募・選出状況	13
2. 支援件数の推移	14
3. 第28回(2012年度)マツダ市民活動支援一覧	15
II-3. 感動塾・みちくさ	16
II-4. 第31回講演会	17
II-5. 大学寄付講義の実施概要	18
III. 管理事項の概要	19
III-1. 役員等に関する事項	19
1. 平成25年3月31日現在の役員・評議員の名簿	19
2. 役員等の異動状況	19
III-2. 職員に関する事項	20
III-3. 理事会・評議員会等、主な活動事項	20
III-4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	21
III-5. 登記に関する事項	21

平成24年度(2012年度)事業報告(総括)

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑えるとともに、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独自性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を広島大学と共同して実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。また、市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。更に、小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(財)広島市未来都市創造財団と共同開催しました。講演会では、立花 隆氏を講師としてお招きし、「二十歳(はたち)の君へ」と題してお話をいただきました。今回初の試みとしてご招待した学生250名を含め、1,000名の聴講者があり、好評を得ました。大学講義では、広島女学院大学にて単位互換「ボランティア活動」を行いました。

科学技術振興関係

① 研究助成

機械、電子・情報、材料の3分野を対象に24件2,800万円の助成を行いました。(国内/公募)

② 事業助成

研究者による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に10件100万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

③ 科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学と連携して実施しました。(連携事業/参加者公募)

青少年健全育成関係

① 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究5件に計400万円の助成をしました。(国内/公募)

② 市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動32件に計800万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

③ 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(財)広島市未来都市創造財団との共催で、3施設で実施しました。(連携事業/参加者公募)

④ 講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、立花 隆氏を講師に迎え実施しました。

⑤ 大学寄付講義

広島女学院大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第28回(2012年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③材料の3分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法

研究者の所属する機関または部局等の代表者による推薦方式

(d) 推薦依頼先

国・公・私立大学の理工学系部局の代表者（学部長、研究科長、研究所長等）、および高等専門学校（全国163機関）の校長

(e) 助成金総額 2,800万円

(f) 助成件数 25件程度

(g) 1件当り助成金額 上限200万円

(h) 助成期間 1年または2年

(i) 募集期間 2012年4月20日～6月10日

(2) 応募状況

締切りまでに合計289件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	156件（54%）
	・関西以西	133件（46%）
(b) 分野別	・機械	64件（22%）
	・電子・情報	66件（23%）
	・材料	159件（55%）
(c) 若手研究者（40才以下）		172件（60%）

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会（7月20日、21日開催）において慎重に審査された結果、助成候補として24件が選出され、第10回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

2012年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移－科学技術振興関係－

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第28回) 2012年度	第27回 2011年度	第26回 2010年度
応募件数(件)	289	318	356
助成件数(件)	24	25	26
助成比率(%)	8.3	7.9	7.3
助成金総額(万円)	2,800	3,000	3,000

(地域別状況)

地域	2012年度		2011年度		2010年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	156	13	168	14	180	11
近畿(件)	68	4	68	4	96	6
中国・四国(件)	39	4	59	4	55	7
九州・沖縄(件)	26	3	23	3	25	2
合計(件)	289	24	318	25	356	26

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2012年度		2011年度		2010年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
機械(件)	64	5(2)	66	5(5)	75	6(2)
電子・情報(件)	66	5(2)	75	6(2)	73	6(3)
化学系材料(件)	77	7(6)	88	7(4)	105	7(6)
物理系材料(件)	82	7(3)	89	7(4)	103	7(5)
合計(件)	289	24(13)	318	25(15)	356	26(16)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時
()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第28回(2012年度) マツダ研究助成一覧 ー科学技術振興関係ー

助成対象研究の概要は、以下の通りです

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【機械】		
フロントガラスへの応用を指向した無反射構造のトポロジー最適設計法の開発	藤井 雅留太 秋田県立大学システム科学技術学部助教	110
フロントガラスへの映り込み(反射)は視界を悪化させ、重大な事故の原因となり得るため、その対策は重要である。無反射構造はガラスなどの誘電体表面にマイクロナノサイズの凹凸をつくり、平均誘電率の変化を滑らかにすることによって反射を低減する構造であるが、対象がガラスから離れると曇ってみえるため、遠方の視認性が非常に悪い。そこで、本研究ではレベルセット法による形状表現に基づくトポロジー最適化を用いて、遠方の視認性を確保し、かつ反射を最小限に低減する構造を設計し、映り込みを防ぐフロントガラスへの応用を試みる。		
形状記憶ポリマーの温度による剛性変化を利用したロボットの姿勢維持機構に関する研究	◇ 高嶋 一登 九州工業大学大学院生命体工学研究科准教授	115
ロボットは、近年、介護・福祉などの分野に適用され、人間と同様に「大きな力」と「柔軟性」の両立が求められている。人間は行う動作に応じて、関節回りの屈筋・伸筋を弛緩・収縮させ、関節を柔らかくしたり硬くしたりさせる。一方、ロボットアームでは、駆動後、荷重を負荷した状態で姿勢を維持することが必要な場合が多い。そのため、申請者はこれまで形状記憶ポリマーの温度による剛性変化を利用した姿勢維持機構をいくつか開発してきたが、本研究では全てのデバイスの共通課題である加熱・実装方法の検討を行う。		
数値シミュレーション技術の信頼性評価法の確立	◇ 岩佐 貴史 鳥取大学工学研究科准教授	100
本研究は、確定的見地から得られた数値シミュレーション結果に信頼区間を設定し、不確定性を含む実際の構造物の応答を一定の信頼度で予測する方法論を構築する。そして、数値シミュレーションの信頼性を定量的に評価できる方法論を確立し、これまで数値シミュレーション技術の信頼性の観点から困難とされてきた「数値シミュレーションによる構造物の試験検証法」を確立するための革新的基盤技術を創出する。		
受動歩行に基づく弾性要素とハイブリッドダイナミクスを利用した省エネルギー脚式移動機械の設計	成川 輝真 埼玉大学大学院理工学研究科助教	120
脚式移動機械は、車輪型では困難な環境を移動できる可能性があることから、車輪型移動機械と補完しあうことで、機械の行動範囲を広げることが期待できる。しかし、現状では、移動機械の基本的な性能である移動エネルギー効率に限って見ても、車輪型移動機械の性能に遠く及ばない。本研究の目的は、申請者のこれまでの研究成果を踏まえ、受動歩行に基づき弾性要素とハイブリッドダイナミクスを利用した脚式移動機械を設計し、移動エネルギー効率の大幅な改善が実現されることを理論的かつ実験的に示すことである。		
受動操作に着目したステアリング操作における上肢運動制御則の解明と操作感設計論の確立	田中 由浩 名古屋工業大学大学院工学研究科助教	130
ステアリングの操作は重力効果が逆になる左右の腕で、ステアリングホイールを回すという一つの動作目標を達成しており、かつその際ある操作感が想起される。触感覚は本来、人が受容した機械刺激に基づくものであり、狙った操作感を生成するには、人を含めた操作系を分析することが重要である。本研究では、申請者らの研究グループがこれまでに開発した左右独立構造のステアリングを用いて、重力、両手操作に着目し、上肢運動制御則および操作感の知覚メカニズムを明らかにし、ステアリング操作感の設計論を確立する。		
【電子・情報】		
プラスチック光ファイバ中のブリルアン散乱を用いた安心・安全のための分布型歪・温度センサの開発	◇ 水野 洋輔 東京工業大学精密工学研究所助教	115
長い光ファイバに沿った任意の位置で歪や温度を測定できる「分布型ファイバセンサ」は、安心・安全のため、精力的に研究がなされている。しかし、従来専ら用いられていたガラスファイバは数%の歪で切断されてしまうため、それ以上の大きな歪を測定することはできなかった。そこで本研究では、50%以上の歪にも耐えられるプラスチック光ファイバ(POF)を用いて分布型センシングを実証する。POFを用いることで、対応可能な歪範囲の拡大のみならず、センサに対して「記憶」という新機能を付与できる点が本研究の特徴である。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
情報伝送機能を備えた小型・高効率な経皮エネルギー伝送システムの研究開発	山本 隆彦 東京理科大学理工学部助教	110
<p>末期の不可逆性心疾患患者の治療手段として期待されている体内埋込型人工心臓システムは、患者のニーズに合わせた移植時期の決定が容易である。少子高齢化に伴う、今後の労働者の医療費負担増加や家族の介護負担の増加を考慮すると、普及が急務である。本研究は、学際的な協力体制が必要不可欠な体内埋込型人工心臓システム開発において、感染症の問題を根本から解決し、患者のQOLを向上させる、情報伝送機能を備えた小型・高出力な経皮エネルギー伝送システムの研究開発である。</p>		
励起光照射によるマイクロ波帯誘電率に関する基礎物性調査及びこの現象を用いた超高速チューナブルフィルタへの応用研究	齊藤 敦 山形大学大学院理工学研究科准教授	100
<p>本研究では、励起光を誘電体へ照射した際に誘電率が增加する光誘起誘電率増加効果に着目し、高周波測定技術を駆使した新しい評価方法によって、この物理の解明のための系統的な実験データを得ることを目的とする。また、この興味深い現象を利用して、マイクロ波フィルタの超高速チューニングを実現することを最終的な目的としている。</p>		
医療・バイオ応用を目指した発振回路応用型超高解像度インピーダンスプローブの研究	外谷 昭洋 呉工業高等専門学校助教	100
<p>従来のインピーダンス(誘電率・導電率)分布の測定法は、解像度1mm以下を実現することが難しいうえに、測定の煩雑さが問題となっている。本研究では、集積回路の高集積性や低消費電力性、デジタル回路との親和性を活かし、従来の発振回路を応用した高解像度インピーダンス測定法を提案する。2年間の研究期間でプローブ用インダクタと発振回路の評価、システム実証を行い、実用化を見据えた研究を行う。研究成果は、今までにないマイクロな現象解明手法となり、医療・バイオ応用の分野での応用が期待できる。</p>		
並列デジタルホログラフィに基づく高精度高速度3次元動画像その場計測装置の開発	角江 崇 千葉大学大学院工学研究科助教	150
<p>並列デジタルホログラフィは動く物体の高精度3次元動画像計測を可能にする技術であり、申請者は本技術を用いて、圧縮ガス噴流の3次元動画像の記録・観察に成功した。しかし、本技術における像再生処理計算には多大な時間を要するため、記録から再生までに大きなタイムラグがあり、その場計測の実現が極めて困難であった。本申請課題では、GPUの並列演算処理能力を利用して像再生処理計算の高速化を実現するとともに、高速現象の高精度3次元動画像その場計測装置の開発を目指す。</p>		
【化学系材料】		
金属を複合担持することで可視光を幅広く吸収するようにして反応性を高めた光触媒によるCO ₂ からのH ₂ 製造	西村 顕 三重大学大学院工学研究科助教	110
<p>本研究では、TiO₂光触媒のCO₂改質・燃料化性能向上、特にH₂製造性能向上を主目的とする。CO₂、H₂O共存下でH₂製造実績のあるPdに、吸収光波長域の異なるCr、Cu、Fe、Vを選択的に組み合わせることでTiO₂に担持することで、太陽光中の波長域光に幅広く応答する人工光合成光触媒の新規開発を目指す。本光触媒について、(1)作製方法の確立、(2)照射光条件の制御可能なCO₂改質リアクターの開発、(3)CO₂改質・H₂製造性能の評価・向上・反応メカニズムの解明、を実施する。</p>		
窒化炭素等価体としての水溶性高分子材料の開発	田中 一生 京都大学大学院工学研究科助教	100
<p>窒化炭素とは組成式はC₃N₄で表され、レアメタルや遷移元素を用いずに、可視光照射下で二酸化炭素や一酸化窒素などの気体の分解や、水の分解などを起こすという光触媒機能が報告されている。しかし、窒化炭素は溶媒に不要であり、構造解析は困難である。本研究テーマでは様々な有用な光触媒能を有する窒化炭素について、類似の構造を持つ高分子を合成することで有機元素のみからなる等価体として利用し、高機能化や材料特性の向上を狙うものである。</p>		
幅広い波長域の光捕集力を有する新規ドナー・アクセプター型高分子の開発	今榮 一郎 広島大学大学院工学研究科准教授	100
<p>高効率有機薄膜太陽電池の開発を目指し、幅広い波長領域の光を効率よく捕集することができる新規ドナー・アクセプター型高分子を合成する。具体的には、高い電荷輸送能と幅広い波長範囲での光吸収が期待できるエチレンジオキシチオフェン(EDOT)含有オリゴチオフェンをドナーユニットに有するπ共役系高分子を合成する。得られたポリマーの光学的、電気化学的、電気的性質を調査するとともに、フラーレン誘導体(PCBM)との複合膜を有機活性層として用いたバルクヘテロ接合型有機薄膜太陽電池を作製し、その素子特性を評価する。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
鉄酸化物のナノ構造の作製	高橋 竜太 東京大学物性研究所助教	120
申請者らはマグネタイトのナノ単結晶をチタン酸ストロンチウム基板上に作製することに成功した。このナノ単結晶を作製するプロセスを利用して、磁性特性、光触媒特性を新しく探索する。マグネタイトは金属特性を示し、チタン酸ストロンチウムとショットキー接合を生成する。チタン酸ストロンチウムパーティクル表面に担持したPt金属のように助触媒として機能することが期待される。また、本研究ではマグネタイトに限らず他のフェライトナノ構造の作製も行い、最終的にはコアシェル超構造の作製を最終目標とする。		
希土類発光体を用いた可視光フルカラーチューニング材料の開発	西山 桂 島根大学教育学部准教授	100
本研究は「紫外線励起により、任意の可視光波長で光を放つ、ソフトマテリアル発光体を創製する」ことを目的とする。発光体には希土類-有機発光錯体を使用する。希土類をCe, Dy, Tb, Eu, Sm 等と変化させて、青色から赤色にわたる色純度の高い発光線を得る。次に、得られた可視光発光を色度図に従って調光し、白色光を得る。希土類錯体は、有機ナノゲル中に高濃度で分散させることにより発光効率を高める。本研究の成果は、ロール紙のようなカラーレーザーや照明器具等に応用できる。		
金属の腐食を防止する超撥水ナノ粒子フィルムの創成	荻原 仁志 東京工業大学大学院理工学研究科助教	100
申請者が開発した「超撥水ナノ粒子フィルム」を金属材料表面にコーティングして、金属に高い耐腐食性をあたえる。超撥水フィルムで覆われた金属は原理的に水とまったく接触しないため、ほとんど腐食しない材料になる可能性がある。この超撥水フィルムは市販粒子とアルコールからなる分散溶液をスプレーするだけで得られる。シンプルに設計したナノテクノロジーによって金属材料の腐食を防止し、金属資源の有効利用・省コスト化に貢献する新規なプロセスを提案する。		
電気化学反応によって発光・発色を制御する新規デュアルモードディスプレイ材料の創製	中村 一希 千葉大学大学院融合科学研究科助教	160
情報伝達において非常に重要な、人間-マシン間の接点となるディスプレイは、発光型と非発光型に大別されるがそれぞれ短所を有しており、暗所ならびに太陽光下を含めた明所での視認性、省エネルギー性など両者の長所を満たすデュアルモードディスプレイ(DMD)の開発が望まれている。しかし、単一素子で発光・反射表示を実現するには素子構造が複雑となることから実用的な候補素子と成り得ていない。本研究では単一分子内で発光・反射両方式の駆動が出来、フルカラー化も可能となる全く新しいタイプのDMD素子構築を目指す。		
【物理系材料】		
絶縁体熱電材料の開拓と高効率熱-スピン流変換機能の創出	内田 健一 東北大学金属材料研究所助教	200
本研究は、応募者らが発見した「スピンゼーベック効果」を利用することで高効率なスピン流生成を実現し、既存技術の延長線上にはない熱スピン・熱電変換機能を創出するものである。応募者が蓄積した知見・ノウハウに基づき材料・作製プロセス・素子構造を総合的に開発することで、世界に先駆けてスピンゼーベック効果を利用した熱エネルギーデバイス技術を確立することが可能であり、従来はエネルギー源になり得なかった絶縁体を含むあらゆる物質中の未利用エネルギーを有効活用する環境発電を実現させる。		
光発生型pn 接合を構成する新奇有機材料の開発	森末 光彦 京都市芸繊維大学大学院工学科学研究科助教	100
単一成分から構成される有機薄膜に光照射することによって電荷分離反応をする新奇有機材料を開発することによって、光照射時のみにpn 接合界面を生成する“光発生型pn接合”のデバイス構築原理の提案を行う。光励起状態を経由した一種の不均化反応である光誘起対称性破壊型電荷分離反応を示す新奇材料を獲得することによってはじめて、このような従来例を見ないデバイス構造の構築が可能となる。本研究では、申請者のこれまでの知見に基づいて、同一有機化合物間での電荷分離反応を行う有機材料開発を行い、これを単層薄膜化して光電流応答を評価することにより、“光発生型pn接合”の創製を目指す。		
プログラマブル機能分子集積に基づく超高速有機トランジスタの開発	安田 琢磨 九州大学大学院工学研究院准教授	100
有機トランジスタは、ディスプレイなどの制御用デバイスを、安価に供給できる有望な技術として注目を集めている。有機半導体の設計過程で、予め分子の集積構造をプログラムして材料開発することにより、ナノからマクロスケールにわたる精緻な秩序構造を有する半導体活性層を構築することが可能と期待できる。本研究では、このような「プログラマブル機能分子集積」によって得られた、有機半導体単結晶マイクロピンのトランジスタ特性を詳細に検討する。特に、従来の半導体材料系でみられるホッピング伝導とは全く異なる電荷輸送機構、即ち、バンド伝導性の発現に着目して、有機半導体材料設計・合成から電荷輸送特性評価までを統合的に行う。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
高温超伝導体を用いたミリワットレベルのテラヘルツ波発振素子の開発	柏木 隆成 筑波大学数理物質系助教	100
<p>本研究では、現在研究開発中の「銅酸化物高温超伝導体を用いたテラヘルツ波発振素子」の発振出力を1~2桁程度向上させ、サブミリ~ミリワット程度の発振出力を目指す。そのために、外部共振器構造を用いた複数素子の協調動作の方法の確立を目指す。具体的には誘電体共振器等を用いて現発振素子の複数協調動作を目指す。これが実現した際には、非常に小型なテラヘルツ帯域の発振素子が実現できるため、超高速通信や高分解能な非破壊検査といった新しい応用技術への利用が期待できる。</p>		
外部刺激に応答して伸縮する水素結合駆動型分子集合体の創製	高須 清誠 京都大学大学院薬学研究科教授	135
<p>外部刺激(電位変化、pH変化もしくは金属イオンの濃度変化)に応答して、伸縮運動しうる分子集合体システムの人工合成の可能性に挑む。そのために、水素結合様式の変化により可逆的にダイナミックな構造変化をする分子の創製を第一の目標とする。第二に、その構造変化を出力側に伝える相補的な被認識分子の開発を目的とする。第三に、分子集合体を作製しマクロな運動出力が可能なシステム構築を行う。将来的には「人工筋肉」様のナノ材料創製にむけた展開を目標とする。</p>		
水素終端ダイヤモンド表面の超高濃度正孔キャリア生成を伴う窒素酸化物等の還元分解現象の解明と大気汚染物質検知技術・無害化技術への応用	嘉数 誠 佐賀大学大学院工学系研究科教授	125
<p>本研究課題は、申請者らが最近見出した、窒素酸化物等の無機分子が水素終端ダイヤモンド表面に吸着すると、極めて高濃度の正孔を生成し、絶縁体から金属的に変化し、無害なN₂とO₂分子に還元分解される極めて特異的な現象を、ガス注入可能な走査型トンネル顕微鏡(STM)およびシンクロトン放射光を用いた光電子分光法(XPS)によって解明し、ダイヤモンド・トランジスタ構造を応用した超高感度の大気汚染物質センサーや、資源豊富なカーボン系触媒による大気汚染ガス無害化技術の基礎的検討を行うものである。</p>		
テラヘルツ帯超低雑音動作を目指した新奇構造を有する窒化ニオブ系超伝導ヘテロダインミキサーの開発	武田 正典 静岡大学創造科学技術大学院講師	100
<p>超伝導トンネル接合を用いた超伝導SISミキサーはサブミリ波帯で量子雑音限界を達成できる最も高感度なヘテロダイン検出器である。超伝導SISミキサーの低雑音動作の上限周波数は超伝導ギャップ周波数によって特徴づけられる。本研究では高い超伝導ギャップ電圧を有する窒化ニオブ系超伝導トンネル接合と超伝導ギャップ周波数に支配されない金属マイクロストリップで構成する同調回路を組み合わせた新奇超伝導SISミキサーを提案し、将来的に2THzまでの低雑音動作を目指す。</p>		
合計	24件	2,800万円

I - 2. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

第28回（2012年度）は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行った。本年度は、募集期間を通期で年1回としました。

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校に所属（常勤）し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2012年6月から2013年5月に実施される

- ・ 研究者による「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法 事業責任者による申請方式

(d) 対象地域 中国地方

(e) 助成金総額 100万円

(f) 助成件数 10件程度

(g) 1件当たり助成金額 10万円

(h) 助成期間 2012年6月から2013年5月

(i) 募集期間 2012年4月4日～5月7日

(2) 応募状況

本年度は、25件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

・ 鳥取県	0件	・ 広島県	5件
・ 島根県	11件	・ 山口県	6件
・ 岡山県	3件		

(b) 分野別

(1) 体験事業の開催	24件
(2) 研究会等の開催	0件
(3) 成果出版物の発刊・教材等の試作	1件
(4) その他	0件

(c) 若手研究者（40才以下） 13件（52%）

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月18日）において慎重に審査された結果、助成候補として10件が選出され、第9回理事会（6月28日開催）において報告されました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第28回) 2012年度	第27回 2011年度	第26回 2010年度
応募件数 (件)	25	24	19
助成件数 (件)	10	15	13
助成比率 (%)	40	63	68
助成金総額 (万円)	100	150	130

(地域別状況)

地 域	2012年度		2011年度		2010年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
鳥 取 県 (件)	0	0	1	1	0	0
島 根 県 (件)	11	2	9	3	2	1
岡 山 県 (件)	3	2	3	3	9	6
広 島 県 (件)	5	4	5	3	5	4
山 口 県 (件)	6	2	6	5	3	2
合 計 (件)	25	10	24	15	19	13

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2012年度		2011年度		2010年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
(1) 体験事業の開催 (件)	24	9	23	14	17	11
(2) 研究会等の開催 (件)	0	0	0	0	0	0
(3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	1	1	1	1	2	2
(4) その他 (件)	0	0	0	0	0	0
合 計 (件)	25	10	24	15	19	13

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第28回(2012年度) マツダ事業助成一覧 —科学技術振興関係—

事業名 ([]内は小・中・高生の参加者数)	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間
岡山大学農学部ジュニア公開講座「これでみんなも岡大ライス博士」 参加者数: 20名 [内、12名] 講演:4	岡山市	齊藤 邦行 岡山大学環境生命科学研究科(農学部) センター長・教授	2012.6.16 ~ 12.8
竹を使った電子万華鏡の製作教室 参加者数: 38名 [内、33名]	豊田郡	今井 慎一 広島商船高等専門学校助教	2012.10.27 ~ 10.28
バイオ・キッズ in BINGO(備後) 12—福山大学生命工学部バイオサイエンス公開実験・小学生の部— 参加者数: 144名 [内、54名]	福山市	高村 克美 福山大学生命工学部教授	2012.7.28
空気ので火をつける? 圧気発火器の製作 とエンジンのひみつ (ガソリンエンジンとディーゼルエンジンのちがいを) 参加者数: 13名 [内、8名] 講演:1	大島郡	山口 伸弥 大島商船高等専門学校助教	2012.10.20
高校生を対象とした瀬戸内海の生物多様性を学ぶ体験型実習 参加者数: 41名 [内、38名]	東広島市	富川 光 広島大学大学院教育学研究科講師	2012.7.14 ~ 7.16
地震で揺れにくい建物を作るにはどうしたらよいの? —手を動かして地震に強い家を考えよう— 参加者数: 52名 [内、52名]	松江市	山田 裕巳 松江工業高等専門学校准教授	2012.8.2 ~ 12.15
ミニレスキューロボット製作 —レスキューロボットを体験しよう— 参加者数: 50名 [内、50名]	松江市	本間 寛己 松江工業高等専門学校講師	2012.11.3
水辺の環境モニタリング用双胴式サンプル回収装置の試作	津山市	細谷 和範 津山工業高等専門学校准教授	2012.6.1 ~ 2013.3.31
出前授業「お湯で動く形状記憶合金熱エンジン」の実施 参加者数: 480名 [内、450名]	宇部市	徳永 仁夫 宇部工業高等専門学校准教授	2012.6.1 ~ 12.14
実体験重視型 電気の工作・体験教室「エジソン・スクール」 参加者数: 235名 [内、179名]	呉市	横沼 実雄 呉工業高等専門学校准教授	2012.6.30 ~ 12.15
合 計		10件	100万円

I-3. 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組むブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有すると共に、教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待されます。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。

(2) 連携先

広島大学科学わくわくプロジェクト研究センター

研究代表者：広島大学大学院教育学研究科 教授 林 武広

(3) 主要事業

①サイエンスレクチャー（広島会場）：2012年8月19日開催

- ・講師：広島大学大学院理学研究科 泉 俊輔 教授
- ・テーマ：「キッチンタイマーを作ろう」、小中高生（中学生中心）、一般（100名）

②ジュニア科学塾 ～年間テーマ「光」

第1回：2012年4月22日開催

- ・講師：広島大学情報メディア教育研究センター長 相原 玲二 教授
- ・テーマ：「インターネットのしくみをさぐる」、中学生対象（26名）

第2回：2012年5月13日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 蔦岡 孝則 教授
- ・テーマ：「光の不思議な物性」、中学生対象（26名）

第3回：2012年8月4日・5日開催

- ・講師：広島大学大学院理学研究科 田川 訓史 准教授
広島大学大学院理学研究科 浦田 慎 助教
広島大学大学院技術センター 山口 信雄 技術主任
- ・テーマ：第1部「干潟生物の採集、観察」、第2部「ウミホタルの発光」
第3部「ウニの発生実験」、中学生対象（26名）

第4回：2012年10月21日開催

- ・講師：広島大学教育学研究科 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「化学変化による発光現象」、中学生対象（26名）

第5回：2012年12月15日開催

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 川端 弘治 准教授
- ・テーマ：「星の光から何がわかるか」、中学生対象（21名）

第6回：2013年2月10日開催（オプション講座）

- ・講師：広島大学教育学研究科 林 武広 教授
- ・テーマ：「望遠鏡づくりと天体写真」、中学生対象（17名）

③ 科学塾研究室

(2012年6月2日開講式、11月3日「広島大学理学部・大学院理学研究科主催 中学生・高校生科学シンポジウム」にて発表)

天文学講座

- ・塾 長：広島大学宇宙科学センター 川端 弘治 准教授
- ・テーマ：「ブラックホール連星の軌道計算」、高校生対象（1名）

分子生物学講座

- ・塾 長：広島大学大学院理学研究科 坂本 尚昭 准教授
- ・テーマ：「ウニ胚はなぜ左回りに回転するのか（2）」、高校生対象（1名）

古生物学講座

- ・塾 長：広島大学大学院教育学研究科 吉富 健一 講師
- ・テーマ：「現生種との比較における中新世貝化石の化石化の研究」、高校生対象（1名）

④ 小学校理科ひろば：

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授 他
- ・テーマ：授業実践講座または模擬授業、東広島市他の小学校 15校49学級対象
- ・その他：小学校教員向け手引き「広島市の自然観察」作成～配布

なお、当冊子作製は、一般財団法人 理数教育研究所 の協賛も受けている。

(4) 実施額 300万円

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第28回(2012年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるをえません。今日生涯の各段階において、人間形成上あるいは社会生活上、絶えず自ら学習することの必要が叫ばれ、そのための学習基盤の整備充実を進めることが求められておりますが、中でも青少年段階におけるそれは重要であると考えます。

こうした青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、その一助として費用の一部もしくは全部を助成します。

(b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野：①青少年をとりまく環境 ②コミュニティづくり ③ボランティア育成 ④科学体験
⑤前各号に類する分野

(c) 募集方法

研究者の所属する機関の代表者による推薦方式

(d) 推薦依頼先

国・公・私立大学教育学部を主体に青少年健全育成関係機関の機関長

(e) 助成金総額	400万円
(f) 助成件数	4～5件
(g) 助成期間	1年または2年
(h) 募集期間	2012年4月20日～6月30日

(2) 応募状況

締め切りまでに33件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	13件(39%)
	・関西以西	20件(61%)
(b) 分野別	・青少年をとりまく環境	18件(55%)
	・コミュニティづくり	3件(9%)
	・ボランティア育成	1件(3%)
	・科学体験	5件(15%)
	・前各号に類する分野	6件(18%)

(3) 助成対象の選出

選考委員会(7月30日)において慎重審議の結果、助成候補として5件が選出され、第10回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成金贈呈書の贈呈

2012年10月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第28回) 2012年度	第27回 2011年度	第26回 2010年度
応募件数(件)	33	32	34
助成件数(件)	5	5	5
助成比率(%)	15	16	15
助成金総額(万円)	400	400	400

(地域別状況)

地域	2012年度		2011年度		2010年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	13	1	23	2	20	2
近畿(件)	8	1	2	1	3	0
中国・四国(件)	10	2	7	2	7	2
九州・沖縄(件)	2	1	0	0	4	1
合計(件)	33	5	32	5	34	5

(左側数字:応募件数,右側数字:助成件数)

(分野別状況)

分野	2012年度		2011年度		2010年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
青少年をとりまく環境(件)	18	1	19	3	20	3
コミュニティづくり(件)	3	1	6	2	4	1
ボランティア育成(件)	1	0	0	0	1	1
科学体験(件)	5	1	4	0	4	0
前各号に類する分野(件)	6	2	3	0	5	0
合計(件)	33	5	32	5	34	5

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分類は審査時)

3. 第28回(2012年度) マツダ研究助成一覧 –青少年健全育成関係–

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
万引き防止教育プログラムの開発および効果の検証	大久保 智生 香川大学教育学部准教授	70
<p>本研究では、中学生とその保護者を対象とした万引き防止教育プログラムを開発し、その効果について検証する。香川県は2009年まで万引きの認知件数が全国ワースト1位であり、世代別では青少年、特に中学生の万引きが最も多いことが明らかになっている。そこで、これまで行ってきた研究成果をもとに、中学生の万引きに対する意識が向上する万引き防止教育プログラムと保護者の万引きに対する意識が向上する万引き防止教育プログラムを開発し、プログラム実施による中学生と保護者の意識の変化について検討を行う。</p>		
青年期女性の”適切ではない自己表現”に関する研究 –学生相談における自傷関連行動への理解と支援–	吉村 麻奈美 津田塾大学学芸学部講師	80
<p>青年期女性における自傷行為（リストカット、過食等）をはじめとする幾つかの行動は、しばしば問題として捉えられ、関係者が対応に苦慮する場面も多い。本研究では、従来はそのように問題行動として扱われていた一群を“適切ではない自己表現”として新たな括りで捉え直し、その背景や現代性を詳らかにすることによって、新たな知見を得ることを目指す。また、学生相談における実践データを通してより理解を深め、より健康的な自己表現を促せるような支援への示唆を得ることで、青少年の健全育成への寄与を目指す。</p>		
家庭における科学教育推進のための保護者参加型教室プログラムの開発と評価	山中 仁昭 広島国際大学工学部助教	90
<p>昨今、子供の理科離れを背景に、様々な科学体験教室が開催されている。このような科学体験教室は子供の科学に対する学習意欲を向上する上で大きな効果があると考えられる。しかしながら、その場限りの体験に終わってしまっただけではその効果も半減する。本研究では、まず、科学体験教室後の持続的なフォローが大切であることを出発点に、家庭での学習に注目し、保護者参加型の科学体験教室を提案する。続いて、提案した内容を本学での科学体験教室に実践的に導入し、このような家庭と連携した科学体験教室の在り方について評価・検証する。</p>		
社会教育領域における長期の青少年健全育成事業に特有の教育力に関する研究	立石 麻衣子 NPO法人北摂子ども文化協会日本こども未来研究所主任研究員	90
<p>本研究は、NPO法人北摂子ども文化協会が手掛ける社会教育実践「ひと山まるごとプレイパーク」の分析を通して、社会教育の領域における青少年健全育成事業に見られる特有の教育力を特定する。研究対象となる実践の特徴は、第一に10年を超えて続く長期の蓄積があること、第二に、プログラム提供型ではなく子どもの自発性を尊重した活動を徹底していること、第三に、異世代交流型の直接自然体験活動であることが挙げられる。幼児だった子が小学校を卒業するまでという時間軸の中で、子どもの育ちを捉える。</p>		
糸島地区における学生と地域の連携による空き家活用に関する実証的研究	横田 雅紀 九州大学大学院工学研究院助教	70
<p>2005年に九州大学が移転を開始した糸島地区では、学研都市化を推進する一方で急増する空き家が問題となっている。このような背景を受けて本研究では、地域と学生の連携に向け、糸島の空き家を学生活動の場として活用することを試みる。具体的には学生と地域ボランティアで協力して空き家を「住む」場所としてのシェアハウス、「活動する」場としてのシェアオフィスという2タイプの場として改修し、改修後も学生の発想力で独創的な運営を行うことで、学生の自発的な活動を促進しながら地域と連携する手法を提案する。</p>		
合 計	5件	400万円

Ⅱ－２．市民活動支援

1．募集・応募・選出状況

第28回(2012年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- | | |
|--------------|--|
| (a) 対象活動 | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動
①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯
④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域 | 広島県、山口県 |
| (c) 支援期間 | 単年度支援 2012年4月1日～2013年3月31日の1年間 |
| (d) 支援金総額 | 800万円 |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円 |
| (f) 募集期間 | 2011年10月13日～2012年1月13日 |

(2) 応募状況

締切日までに108件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | | |
|---------|-------------|----------|
| (a) 地域別 | ・広島県 | 40件(37%) |
| | ・広島市 | 38件(35%) |
| | ・山口県 | 30件(28%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい | 15件(14%) |
| | ・ボランティア育成 | 19件(17%) |
| | ・地域連帯 | 54件(50%) |
| | ・エコ | 5件(5%) |
| | ・国際交流・協力 | 5件(5%) |
| | ・科学体験・ものづくり | 10件(9%) |

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2012年2月21日、22日開催)での審議の結果、支援候補として、総計32件800万円が選出され、2012年3月26日開催の第7回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2012年4月23日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の26団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2012年4月25日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の6団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第28回) 2012年度	第27回 2011年度	第26回 2010年度
応募件数 (件)	108	97	92
支援件数 (件)	32	31	31
支援比率 (%)	30	32	34
支援金総額 (万円)	800	800	800

(地域別状況)

地 域	2012年度		2011年度		2010年度	
	左	右	左	右	左	右
広島県 (件)	40	14	36	12	31	12
広島市 (件)	38	12	32	12	33	9
山口県 (件)	30	6	29	7	28	10
合計 (件)	108	32	97	31	92	31

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分 野	2012年度		2011年度		2010年度	
	左	右	左	右	左	右
自然とのふれあい (件)	15	3	19	6	12	4
ボランティア育成 (件)	19	5	10	3	13	6
地域連帯 (件)	54	13	45	13	41	12
エコ (件)	5	3	3	2	7	2
国際交流・協力 (件)	5	3	13	4	14	5
科学体験・ものづくり (件)	10	5	7	3	5	2
合計 (件)	108	32	97	31	92	31

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第28回(2012年度) マツダ市民活動支援一覧 -青少年健全育成関係-

活 動 名	団 体 名 (代 表 者)	地 域	金額 (万円)
第6回神楽ふれあい鑑賞会ヒロシマ	神楽ふれあい実行委員会ヒロシマ (会長 伊藤 恒夫)	広島県 広島市	20
学校の裏にある公園を整備して、虫ランドづくり	広島県安芸高田市立小田東小学校 (校長 河下 正紀)	広島県 安芸高田市	25
家庭崩壊により非行に陥った少年達を地域の力で支え、育む活動	食べて語ろう会 (会長 田村 美代子)	広島県 広島市	20
学力支援活動	特定非営利活動法人 みよし子育て学び支援あすなる (理事長 黒田 明憲)	広島県 三次市	25
日本の伝統に触ってみよう！観て・聞いて・感じて…狂言まるごと体験	青少年育成吉舎町民会議 (会長 吉崎 秀峰)	広島県 三次市	20
「ようこそこのさかないち」～地域のだれもが集い賑わう朝市を～	特定非営利活動法人 夢の広場 ようこそ (理事長 池岡 洋子)	広島県 広島市	25
障がい児の余暇活動と支援	府中町手をつなぐ親の会 (会長 中村 祐子)	広島県 安芸郡	15
永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動(環境美化とホテルを守り育てる活動)	永慶寺川の自然を守る会 (代表 山本 満彦)	広島県 廿日市市	20
間伐材を活用したログテントづくり	特定非営利活動法人 メセナSUN-CLUB学びの森 (理事長 藤原 忠治)	広島県 東広島市	30
甦れ！みんなの生きがい	学生ボランティア団体OPERATIONつながり (代表 高橋 大海)	広島県 東広島市	50
2012年度 I P R A Y定期公演・東日本支援公演	特定非営利活動法人 I PRAY (理事長 榎並 毅)	広島県 広島市	25
三次市茂田地区における住民と小学生の協働によるツキノワグマ出没対策活動	特定非営利活動法人 生物多様性研究所あーすわーむ (正会員 藤井 猛)	広島県 三次市	25
学習機会をすべての子ども達に与えたい	特定非営利活動法人 地域福祉活動支援協会 人間大好き (理事長 渡邊 壽江)	広島県 東広島市	40
子どもシェルターの運営	特定非営利活動法人 ピピオ子どもセンター (理事長 鶴野 一郎)	広島県 広島市	40
幼児～小中学生とのふれあいを大切に！	府中町子ども応援隊 (府中町ボランティア協議会会長 篠永 廣也)	広島県 安芸郡	15
行動人となれ！「-ぼくらの未来はどうなる-」地球環境から知るこれから…	特定非営利活動法人 熱帯森林保護団体ひろしま (代表 松岡 敏子)	広島県 広島市	20
安芸高田市向原町長田地区における通学路周辺の竹林の環境整備および放置された資源の活用	特定非営利活動法人 里山環境サポートセンター (代表理事 吉山 朋之)	広島県 広島市	25
廿日市市長期宿泊自然体験活動推進プロジェクト	特定非営利活動法人 自然体験活動推進センター (理事長 林 健児郎)	広島県 広島市	25
児童生徒へのフードバンク活動を通じた食育活動	特定非営利活動法人 あいあいねっと (理事長 原田 佳子)	広島県 広島市	20
冒険遊び場 in ひろせふれあいの丘	ひろせ冒険遊び場運営委員会 (会長 橋高 昇吾)	広島県 福山市	20
武術・読書を通じて、日中両国の文化を学ぼう	子供友好会 (代表 岩井 艶子)	広島県 広島市	25
安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」	安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」 (代表 新田 佳代)	広島県 広島市	15
「三原さんさんプロジェクト」手作り太陽光発電パネル+外灯設置ワークショップ	かんきょう会議 浮城 (代表 尾原 義彦)	広島県 三原市	30
「尾道空き家再生！夏合宿」小学生のためのツリーハウス作り体験	特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト (代表理事 豊田 雅子)	広島県 尾道市	25
中高校生を被災地の役に立てる人材に育てる事業	特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ (代表理事 室本 けい子)	広島県 広島市	40
内海クリーンキャンプ	特定非営利活動法人 元気っ子プロジェクト (理事長 村上 泰弘)	広島県 福山市	25
スカイワークス	社団法人 山口青年会議所 (理事長 吉村 貴三朗)	山口県 山口市	30
モノづくり教室(主催エジソンの卵を育てる会)	エジソンの卵を育てる会 (会長 山本 豊)	山口県 大島郡	20
ものづくり科学教室	日本宇宙少年団 周南分団 (分団長 志水 慶一)	山口県 光市	10
発達障害のある子どもや学校にいけない子ども達への支援	障害児(者)サポートクラブ翔 (理事長 四宮 憲一)	山口県 周南市	20
地域でできる先駆的多文化共生事業「外国人留学生家族の子育て支援」等による親日留学生の育成	国際交流ひらかわの風の会 (会長 中村 幸士郎)	山口県 山口市	30
小学生のキャリア教育「Kids Cafe」でカフェ運営	特定非営利活動法人 コミュニティ友志会 (代表理事 松永 朋子)	山口県 防府市	25
合 計	3 2 件		800万円

Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

(2) 共同開催

(財)広島市未来都市創造財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市三滝少年自然の家

・2012年8月20日～8月22日

・テーマ：「ふしぎ 発見 感動体験 ～光とエネルギー～」

・ねらい 実験、工作などの直接体験をさせる。

科学の楽しさや不思議さを探求し、発見や感動を獲得させる。

課題解決へ向けてのプロセスを大切に、問題解決能力を育てる。

異年齢集団における生活の中で、仲間との協力や、協調することの大切さを学ぶ。

・参加者：小学4～6年生 48名

② 広島市青少年野外活動センター

・2012年8月24日～8月26日

・テーマ：「なろう！天文博士」

・ねらい 天体に関する学習を行い、望遠鏡を使って自らの目でそれを観察するという体験や、普段目にすることのない専門施設の見学を通して、実感を伴った理解を促すとともに、天文学への興味・関心を喚起する。

豊かな自然の中での2泊3日の活動を通して、新たな感動や発見を味わうとともに、協調性を養う。

・参加者：小学3～4年生 56名

③ 広島市似島臨海少年自然の家

・2012年9月15日～9月17日

・テーマ：「海辺のいきもの」

・ねらい 子どもたちの理科離れが進んでいるため、周囲の自然に目を向けさせ、理科への興味・関心をもたせる。

集団行動をとることが苦手な子どもたちが増加しており、集団生活において必要なコミュニケーション能力を育てる。

・参加者：小学4～6年生 36名

(4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

Ⅱ－４．第３１回講演会

青少年健全育成に関する講演会を、講師にジャーナリストの立花 隆氏を迎え、「二十歳（はたち）の君へ」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やPTAへおこない、また新聞紙上を通じて広く聴講希望者を募りました。

今回初めての試みとして招待した学生の皆さん 250 名を含め、当日は 1,000 名の聴講者にご来場いただき、盛会のうちに終えることができました。

立花氏は、聖書・シェイクスピア・哲学・脳科学・憲法等、幅広い領域の視点・立場から、終始熱心にお話をされました。

脳科学の話の中では、人間の脳に 1 兆個あると言われるシナプスが、刻々と生まれたり消えたりして変化していることに触れ、「二十歳の君のこの一瞬一瞬が、君の脳を造っている。限りない可能性は全て、今現在の自分自身の行動で決まる。」と説明されました。

また聖書マタイ伝から、イエスの言葉「蛇のように賢く、鳩のように素直であれ」を引用し、これから社会に出ていく若者に向けて、様々なものが蠢く社会を、恐れることなく、社会の人々と良い関係を作りながらよりよく生きていこうと、激励し講演を終えられました。

聴講された皆様からは、「もっと聴きたかった」、「大学生生活 4 年間で、知性・感性・教養を自分からしっかり身につけたい」、「帰宅して子どもたちに伝えたい」、「新しい学問を知った感じだった」等の感想をいただき、大いに満足していただけたものと察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 立花 隆氏（ジャーナリスト）
- (2) 演 題： 二十歳（はたち）の君へ
- (3) 開 催 日： 2012年11月13日(火)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- (5) 聴講者数： 1,000名

II-5. 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかい社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

(1) 対象学生と目的

- ①工学系学生 (今年度開講なし) 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点(環境・情報・国際化・技術者倫理等)について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。
- ②人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかい社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

(2) 特徴

- ①複数の協力機関からの講師陣
- ②キーワードによる講義の一貫性の保持
- ③大学毎の特徴づけ
- ④学生と講師の双方向授業

(3) 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	講師所属機関	特徴	開講年度
広島女学院大学	特別講義 Ia「ボランティア活動論」	2012 5.19, 26 集中講義 夏休み実習	・ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART ・ひろしまジン大学 ・広島国際学院大学 ・(特活)ANT-Hiroshima ・ひろしままちづくりファシリテーターズ	広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。3名が3箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年

この他、以下の講座へ講師派遣を行った。

広島大学「コミュニケーション能力開発講座(ディベート演習)」

県立広島大学「ひろしまプレミア科目 I、II」「インターンシップ 事前学習 コミュニケーション講座①」

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅲ-1. 役員等に関する事項

1. 平成25年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	山 内 孝	マツダ株式会社 代表取締役会長兼社長
専務理事	代表理事	非常勤	黒 沢 幸 治	マツダ株式会社 常務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	片 山 義 弘	広島大学 名誉教授
理 事		非常勤	櫛 本 功	広島大学 名誉教授
理 事		非常勤	浜 中 典 明	財団法人広島市未来都市創造財団 常務理事
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学大学院工学研究院 教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	友 田 民 義	公認会計士
監 事		非常勤	藤 本 哲 也	マツダ株式会社 財務本部副本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	赤 岡 功	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	浅 原 利 正	広島大学長
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員		非常勤	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 相談役
評 議 員		非常勤	堀 憲 次	山口大学大学院 理工学研究科長・工学部長
評 議 員		非常勤	山 木 勝 治	マツダ株式会社 特別顧問
評 議 員		非常勤	山 中 昭 司	広島大学大学院 工学研究院 特任教授
評 議 員		非常勤	山 西 正 道	広島大学 名誉教授
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学大学院 工学研究院長
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

- ・川本 一之氏が平成24年6月27日理事を退任し、岡谷 義則氏が平成24年6月28日理事に選任された。
- ・山野 正登氏は、平成24年8月15日理事を退任した。
- ・浜中 典明氏は、平成24年10月16日理事に選任された。

Ⅲ－２．職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局長	魚谷 滋 己	・事務局統括
事務局長代理	西川 俊 秀	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局長代理	永松 貴 文	・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
総務課長	世良 和 美	・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局	酒井 知 美	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項

Ⅲ－３．理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 8 回理事会 (決議の省略)	平成24年6月12日	第 1 号議案 平成23(2011)年度事業報告及び決算承認の件 第 2 号議案 理事候補2名推薦の件 第 3 号議案 第4回評議員会招集に関する件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 9 回理事会	平成24年6月28日	議 案 業務執行理事及び常務理事選定の件 [報告事項] 1) 2012年度科学技術振興関係事業助成の件 2) 職務執行の状況 3) 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決
第 1 0 回理事会 (決議の省略)	平成24年9月26日	第 1 号議案 第28回(2012年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第 2 号議案 第29回(2013年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件 第 3 号議案 諸規程の改定の件 第 4 号議案 理事候補 1 名推薦の件 第 5 号議案 第5回評議員会招集に関する件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 1 1 回理事会	平成25年3月25日	第 1 号議案 平成 2 5 (2013) 年度事業計画及び収支予算承認の件 第 2 号議案 第 2 9 回(2013年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第 3 号議案 選考委員 1 3 名選出の件 [報告事項] 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 4 回評議員会	平成24年6月28日	第 1 号議案 平成23(2011)年度決算承認の件 第 2 号議案 理事選任の件 [報告事項] 1) 平成23(2011)年度事業報告の件 2) 平成24(2012)年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 5 回評議員会 (決議の省略)	平成24年10月16日	第 1 号議案 理事1名選任の件 第 2 号議案 評議員会の議事録署名人に関する件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 -上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第28回マツダ研究助成候補の募集	平成 24.4~6	科学技術振興関係、青少年健全育成関係
第28回(2012年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	24.4.23、4.25	助成32団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	24.4.22、5.13、 8.4~8.5、10.21 12.15 25.2.10	広島大学との連携事業
科学わくわくプロジェクト「科学塾研究室」開講 大学講義(広島女学院大学)	24.6.2~11.3 24.5.19、5.26	広島大学との連携事業 (広島県内単位互換科目) 「特別講義Ia「ボランティア活動論」
平成24年度選考委員会(科学技術振興関係)	24.7.20、7.21	第28回マツダ研究助成対象の審議・選出
平成24年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	24.7.30	第28回マツダ研究助成対象の審議・選出
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	24.8.19	広島大学との連携事業
「感動塾・みちくさ」実施	24.8.20~8.22 24.8.24~8.26 24.9.15~9.17	(財)広島市未来都市創造財団と共催
小学校理科ひろば	24.9~12	授業実践講座または模擬授業
第28回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	24.10~11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第29回(2013年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集	24.10~25.1	広島県、広島市及び山口県の青少年健全育成 主管部門等を通じて告知
科学わくわくプロジェクト成果発表	24.11.3	広島大学理学部・大学院理学研究科主催 中学生・高校生科学シンポジウムにて
第31回講演会	24.11.13	講師：立花 隆氏 演題：「二十歳(はたち)の君へ」
平成25年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	25.2.22、2.23	第29回市民活動支援対象の審議・選出

Ⅲ-4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣府	平成24.6.29	事業報告等の提出
	平成24.7.20	理事変更の届出
	平成24.10.24	理事変更の届出
	平成25.3.29	事業計画書等の提出

Ⅲ-5. 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	平成24.7.10	理事変更登記 ・平成23年6月27日 川本 一之氏 理事を辞任 ・平成23年6月28日 岡谷 義則氏 理事に就任 魚谷 滋己氏 理事重任
		理事変更登記 ・平成24年8月15日 山野 正登氏 理事を退任(死亡)
	平成24.10.19	理事変更登記 ・平成24年10月16日 浜中 典明氏 理事に就任